

特定非営利活動法人  
ストップ結核パートナーシップ日本  
(Stop TB Partnership Japan)



<お問い合わせ先>

(特活)ストップ結核パートナーシップ日本 事務局

〒101-0061 東京都千代田区三崎町 1-3-12 結核予防会内

Tel :03-5282-3010 Fax :03-5980-8267

URL: [www.stoptb.jp](http://www.stoptb.jp)

E-mail: [info@stoptb.jp](mailto:info@stoptb.jp)

## 趣 旨

ストップ結核パートナーシップ日本 (Stop TB Partnership Japan, STBJ) は、世界の結核を制圧するために 2000 年にジュネーブの世界保健機関 (WHO) に設立されたストップ結核パートナーシップの日本版として、2007 年 11 月 19 日に設立されました。私たちは、年間約 **180 万人** にも及ぶ世界の結核死の 10% の救済を念頭に、外務省、厚生労働省、財団法人結核予防会、独立行政法人国際協力機構 (JICA)、製薬産業をはじめ、官民の様々なパートナー組織の活動を支援して国内外の結核対策を推進すると共に、結核制圧の重要性を啓発する団体です。

結核はいまだに世界レベルの感染症であり、世界人口の **3 分の 1 (20 億人)** が感染していると言われ、毎年新たに約 **920 万人** が発症しています。世界の結核患者の **80%** は、WHO によって結核高蔓延国に指定された 22 の途上国で占められており、**50%** 以上をアジア、太平洋地域諸国で占めています。また、エイズとの重複感染、治療困難な多剤耐性結核等の新たな問題も発生しており、子供や女性、HIV 感染者を含めた社会的弱者の健康を脅かしています。

日本は、戦後、対策の強化により結核の急速な減少を成し遂げましたが、いまだに結核中蔓延国に位置づけられており、毎年、約 **25,000 人** が発病、約 **2,300 人** が死亡し、罹患率は英国、フランス、オランダ、米国等の先進国の **2-5 倍** となっています。また、高齢化社会の到来により、若い時に結核に感染したお年寄りが免疫の低下によって発症するケースが増え、高齢者世帯・施設での蔓延が危惧されています。医療機関では、結核専門の医療関係者の不足から、結核診断・治療が適切に行われず、今後、重症患者が増えることが予想されています。青壮年層の結核患者では、仕事が多忙である、無保険である等で受診が遅れて重症化するケースや、失職したホームレスの保菌者が、インターネットカフェ、カラオケボックス等の密閉された空間で排菌することによって感染が拡大することも懸念されています。また、介護・福祉関係に従事する結核高蔓延国の労働者の移住、不法滞在目的の旅行者の流入が今後増えることが予想されていますが、彼らが保菌者、排菌者の場合もあります。入国時に感染していなくても、無保険、言葉・文化の壁による受診の遅れやホームレス化によって、日本で新たに感染することもあります。このように、結核は「過去の病気」ではなく、私たちの身近に迫っている問題であること、そして国内対策だけでなく、結核蔓延国で可能な限り多くの患者を発見、治療することで日本への輸出を防ぐことが重要性であることがご理解いただけるかと思えます。

WHO は、2050 年までに結核のない世界を実現することを究極の目標としています。この目標に向けて当団体が結核対策支援を推進していくためには、当団体の趣旨にご賛同いただける官民のパートナーを増やし、パートナーの活動を支援すること、活動に関する情報公開を積極的に行い、社会的な信用を高めることが必要となります。そして、これらの活動を効果的に行うためには、人材の確保、経済的な基盤の確立による運営体制の強化が欠かせません。これからも結核対策を通じて皆様の健康にお役にたてるよう、一層の努力を続けていく所存です。当団体の趣旨を何卒ご理解いただき、ご支援を賜れば幸いです。

## STBJ の事業内容

1. 医療従事者、政策決定者や一般市民に対して、情報提供や研修を通じて結核に関する啓発を推進する事業
2. 結核対策活動を促進するために、会員や諸団体間での会議、事業等による交流を促進する事業
3. 政府省庁間や、NGO、職能団体や民間企業間の協力下で、日本の国内および国際結核対策への参加の協力や調整をする事業
4. 国際的な結核対策活動への日本の貢献を高める適切な政策や優先事項を提言する事業
5. 上記の国際的貢献を推進するための国内の拠点の強化や人材育成を推進する事業

## 会員数(2011年7月現在)

個人会員: 948 名 / 団体会員: 36 団体


### (団体会員)

あいおい損保保険株式会社	味の素製薬株式会社
医療法人社団興和会仲村医院	栄研化学株式会社
NPO フレンドシップ	MDRT 日本会
大阪大学微生物病研究所	大阪市立十三市民病院
株式会社イービーエムズ	株式会社シーアンドシー
株式会社ミトラ	Kenya Orphans and Vulnerable Children Network
神戸市保健所	国立病院機構近畿中央胸部疾患センター
財団法人エイズ予防財団	公益財団法人結核予防会
財団法人結核予防会 結核研究所	結核予防会労働組合
静岡県立総合病院	社団法人全国結核予防婦人団体連絡協議会
生命保険修士会	学校法人専門学校呉学園日本デザイナー学院
特定非営利活動法人シェア＝国際保健協力市民の会	特定非営利活動法人 TICCO
特別公益社団法人日本結核病院協会	長崎大学熱帯医学研究所
ニプロ株式会社	日本結核病学会
日本患者同盟	日本リザルツ
日本生協連医療部会	日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社
日本ビーシージー製造株式会社	株式会社キアゲン
日本ベクトン・ディッキンソン株式会社	新山手病院 保生会

### 世界版ストップ結核パートナーシップ



所在地	世界保健機関内(スイス ジュネーブ)
設立	2000年
参加団体	世界銀行、世界保健機関(WHO)、ハーバード大学公衆衛生大学院、米国国際開発庁(USAID)、ビル&メリンダゲイツ財団、ロックフェラー財団、国連合同エイズ計画(UNAIDS)、カナダ国際開発庁(CIDA)、英国国際開発省(DFID)、国際エイズ・サービス組織評議会(ICASO)、オランダ王国外務省、英国放送協会ワールドサービス・トラスト、オープン・ソサエティ・インスティテュート、リザルツ、スイス熱帯病研究所、途上国の国家結核対策プログラム、財団法人結核予防会他、日本の16団体を含む計1,027団体
各国事務局	日本、ブラジル、カナダ、ガーナ、インドネシア、イラン、イタリア、メキシコ、パキスタン、ロシア、スーダン、ウガンダ、アメリカ、ペルー、モロッコ、バングラディシュ、フィリピン、イギリス、エクアドル、ドミニカ共和国など20ヶ国以上
ガバナンス	34名の調整委員会(援助機関、途上国政府、患者代表、製薬会社、民間財団など多セクターから構成)
8作業部会	アドボカシー、DOTS 拡大、薬剤耐性結核、結核/エイズ重複感染、新結核診断、新抗結核薬、新結核ワクチン、結核対策技術支援

## 主な活動トピックス（2010年1月～）

2/1	<p><b>ハイチ被災者結核対策募金を開始</b> 水道橋ビルにてハイチ被災者結核対策募金を呼びかけるとともに、STBJリーフレットを配布。</p>
2/2	<p><b>世界結核デーに向けた記者発表(厚労省)</b> 世界結核デー(3/24)に向けて</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.世界結核デーのスローガン「技術革新で結核対策を加速しよう」</li> <li>2.国際結核セミナー・世界結核デー記念フォーラム・全国結核対策推進会議</li> <li>3.日本・フィリピン結核患者交流事業</li> <li>4.ハイチ地震と結核対策</li> <li>5.最新の世界の結核統計</li> </ol>
2/4.6	<p><b>ストップ結核パートナーシップ推進議員連盟総会</b> 結核予算に関するヒアリング(厚生労働省、外務省より) 平成 21 年度補正予算、平成 22 年度予算について</p>
2/15	<p>フィリピンのマニラ市において、<b>日本・フィリピン結核患者ワークショップ</b>を実施。 (国際コミュニケーション基金(KDDI 財団)の助成) 目的:結核患者自身の積極的な証言活動を後押しすることで、患者コミュニティの活性化を図るとともに、一般社会からの注意の獲得を目指す。</p> 
3/4	<p><b>世界結核デー記念フォーラム「結核のない世界～結核対策は公衆衛生政策の原点～」</b> 田中慶司事務局長が座長を務めた。</p>
3/24	<p><b>世界結核デーの普及啓発活動</b>を実施。 水道場ビルにて、世界結核デーと高齢者と結核に関する資料を配布。</p>
4/1	<p>米国ワシントンにて、<b>ACSM フォーラム</b>を実施(米国際交流基金日米センターの助成) 参加者は日・米・英の ACSM 活動に関わる関係者。IMF の訪問も行った。</p>
4/13	<p><b>NGO定期協議会</b> NGO・外務省定期協議会の臨時全体会議。岡田外務大臣(当時)、福山外務副大臣(当時)、及び西村外務政務官(当時)の出席の下、外務省が進めているODAの在り方に関する検討について、外務省とNGOが意見交換。</p>
4/15	<p><b>アクションプランフォローアップ</b>会合に参加。 各団体・機関からの報告 特別テーマ「世界基金と協力強化」</p>

5/18	<b>大阪あいりん地区ヒアリング</b> (国際コミュニケーション基金の助成)
5/20・ 21	<b>日本結核病学会</b> STBJとしてブース展示 展示テーマ:ACSM(アドボカシー、コミュニケーション、ソーシャルモビライゼーション)
5月 末～6 月中	<b>耐性結核新薬開発基金に応募があったものの、申請者より、申請の取り下げがあり、運営委員会は中止</b>
6/1	<b>『国際開発ジャーナル』での記事掲載</b> 「日本・フィリピン結核患者交流」について
6月 中～	<b>結核注意を呼びかけるチラシ 配布開始</b> 主に若者・実年齢層に対して結核注意を呼びかけ、早期発見をめざすチラシを制作 裏面はSTBJの広報、国内外の結核問題認知が目的。 (日本ベクトン・ディッキンソン支援)
6/12・ 13	<b>アフリカンフェスタ 2010 横浜レンガ倉庫(外務省主催)</b> 来場者 20 万人 エイズ予防財団との共催 展示テーマは「結核とHIV/エイズの二重感染」 結核早期発見をよびかけるチラシ(日本ベクトン・ディッキンソン支援)、などを配布。
6/14	<b>第63回WHO総会結果に対する情報収集</b> 厚労省武井国際協力室長に対して、概要など情報収集を行った。
7/21	<b>関西地区のこれからの結核対策のあり方を考えるセミナー・意見交換会</b> 関西大学社会安全教育学部主催、STBJ共催。 田中事務局長が、「ストップ結核パートナーシップ日本の設立の経緯と将来展望について」発表を行った。 I部 参加人数 80 名



	<p>II部 意見交換会 40名(日本リザルツより資金援助)</p> 
7/29	<p>国際ラウンドテーブルに後援(日本リザルツ主催)</p>
8月～	<p><b>ニュースレターの発行開始</b> 個人会員とのコミュニケーションの充実を図り、結核問題、STBJへの参加意識を高める為、ニュースレターを発行。今後約2か月に1回発行予定。</p>
8月	<p>「Meetu」8月号 広告掲載 ドラッグストア用情報誌 発行部数 150,000部、全国、4C1P、 ビジュアル:咳をする女性(結核注意を呼びかけるチラシと同じ) (日本ベクトン・ディッキンソン)</p>
9月～	<p><b>高齢者結核注意喚起ポスター 配布開始</b> 高齢者に対して結核注意を呼びかけ、早期発見をめざすポスターを制作(日本ベクトン・ディッキンソン支援・共催、厚労省推薦、日本医師会後援)。 ・四病院団体協議会関連の約7400病院へ配布。 ・ウェストジャパン興業の運営する教習所の高齢者講習用教室での掲示(全国21教室) ・ニュースレターなどで団体・個人会員へ啓発協力を呼びかける 主に、関西地区、長野より協力の申し出があった。</p> 
9月1日	<p><b>パキスタン水害に対する結核支援要望書 提出</b> 外務省国際局 国別開発協力第2課アフガニスタン支援室 課長補佐 芦田克則氏へ提出</p>
9月	<p><b>MDGsサミット 新国際保健政策骨子</b> 今後のNGOの要望に結核対策を盛り込むようフォローを行った。</p>
9/8	<p><b>結核予防週間へ向けた記者発表 (厚労省記者クラブ)</b> 発表者:森代表理事、石川結核研究所所長、永田結核研究所保健看護学科長、 司会:田中事務局長 「結核予防週間直前～結核の現状と結核対策の最新技術～」について、 1. 結核の現状と今後の課題 「結核の統計 2010年」(石川所長) 2. 結核対策の革新 (森代表理事)</p>

	<p>3. 結核予防週間への結核予防会の取り組み(永田保健看護学科長)共同通信より取材依頼があった。</p> 
<p>9/16</p>	<p><b>ハイチ援助会(シスター須藤昭子)へ募金を送金</b>          募金総額¥158,899(結核研究所¥78,641、STBJ¥80,258)          ハイチ地震による結核対策支援に対する募金を日本リザルツと共同して行った。          (2月~8月)</p>
<p>9/20- 22</p>	<p><b>MDGsサミットへの参加</b>          MDG6関連サイドイベントに出席、政府代表者、NGO、患者代表者、ストップ結核大使などに対しアドボカシー活動を行った。</p> 
<p>10 月~</p>	<p><b>新ホームページ公開</b>          より見やすく、タイムリーな情報提供が可能となった。  <a href="http://www.stoptb.jp/">http://www.stoptb.jp/</a></p> 
<p>10 月~</p>	<p><b>結核問題認知・STBJ広報リーフレット配布開始</b>          国内外の結核問題認知・興味関心の醸成、一般の人々へ支援をよびかけるリーフレットを作成(日本ベクトン・ディッキンソン支援)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェストジャパン興業の運営する教習所での配布。年間 30,000 部(予定)</li> <li>・ニュースレターなどで団体・個人会員へ啓発協力を呼びかける</li> </ul> <p>主に、関西地区、長野より協力の申し出があった。</p>

<p>10/2-3</p>	<p><b>グローバルフェスタ(日比谷公園)外務省主催</b>  <b>結核予防会と共同でブース展示</b>          リーフレット 2000 枚、チラシ 300 枚、団体概要 20 部 配布。          10/3 ワークショップ「国際協力と結核-フィリピン貧困地区の現場から」予防会と共催</p>	
<p>10/6</p>	<p><b>ストップ結核パートナーシップ推進議員連盟総会</b>          ・会長の選任・役員の名指・H23 年度結核対策予算のヒアリング(外務省・厚労省)</p>	
<p>10/27-29</p>	<p><b>公衆衛生学会総会 東京国際フォーラム</b>          田中事務局長「潜在結核治療の実態と管理目標」ポスター展示発表          発表資料、STBJリーフレット、を配布。          バッジ募金 ¥4000</p>	
<p>11 月</p>	<p><b>「結核対策の最新技術」記事となる</b>          9/8 記者発表を受けて、共同通信が栄研化学株式会社、森代表理事を取材、記事を配信。          下野新聞 11/12          大分合同新聞 11/13</p>	
<p>11/9</p>	<p><b>アクションプランフォローアップ会合</b>          各団体・機関からの報告          特別テーマ「世界基金と協力強化」</p>	
<p>11/13</p>	<p><b>2010 年ベルリン・ユニオン大会 (TUATLD)</b>          英国結核議連事務局主催の「結核と議員」会合において、ストップ結核パートナーシップ推進議員連盟梅村聡会長は、国境とセクターを超えたネットワークをより強力なものとし、共に結核のない世界をつくるため、STB推進議員連盟はともに闘う旨のメッセージを送った。日本リザルツがAPPGに届けた。</p>	

<p>11/29</p>	<p><b>結核対策特別促進事業費について要望書</b>          403 万円から 253 万円へ予算額が減額された事に対しての要望書を提出          11/2 厚労省情報収集、11/5 梅村事務所訪問          11/11 外山健康局長へ提出          11/29 阿曾沼事務次官へ提出</p> 
<p>11 月</p>	<p><b>GDI・IDIに加入</b>          11/18 の懇談会で正式メンバーとなる。</p>
<p>11/18</p>	<p><b>GII・IDIに関する外務省/NGO懇談会に参加</b>          ・国際保健政策の実施方針・実施計画およびNGOとの連携          ・国際保健政策の認知・普及に関するGO/NGOの連携</p>
<p>12/27</p>	<p><b>日経新聞 15 段 朝刊 記事広告掲載予定</b>          リウマチ財団との共同企画          目的：生物学的製薬投与治療への正しい理解と結核に対する理解促進          「進歩した関節リウマチ治療を結核でストップさせない          ～まずは事前の対策。次いで早期発見と専門家の対応～」</p>
<p>H23 1/15</p>	<p><b>国際シンポジウム ～世界から関西の結核を考える～</b>          国際的な結核対策のパートナーシップ戦略から、関西地区のこれからの結核対策のあり方を考える。          主催：STBJ、関西大学社会安全学部          協賛：日本リザルツ 後援：外務省、厚労省、大阪府、大阪市、財団法人大阪公衆衛生協会、結核予防会大阪府支部、STB関西</p>

## 役員(2011年11月現在)

### 代表理事

森 亨 (公益財団法人結核予防会結核研究所 名誉所長)  
 田中 慶司 (STBJ 事務局長、学校法人東京医科大学 理事長)  
 白須 紀子 (日本リザルツ 事務局長)

### 理事

池田 佳代 (株式会社シーアンドシー 代表取締役)  
 石川 信克 (公益財団法人結核予防会結核研究所 所長)  
 石川 廣 (大塚製薬 医薬品事業部 結核プロジェクト サイエンティフィックディレクター)  
 伊藤瑛位子 (特定非営利活動法人 アースマザー 理事長)  
 内田 健夫 (医療法人社団内田病院 理事長、日本医師会 前常任理事)  
 梅村 聡 (参議院議員)  
 榎本 博光 (栄研化学株式会社 常務執行役研究開発統括部長)  
 小野崎郁史 (世界保健機関 結核対策課 医務官)  
 金子 洋 (有隣特殊工業株式会社 顧問)  
 坂谷 光則 (国立病院機構近畿中央胸部疾患センター 名誉s院長、精華町国民健康保険病院 院長)  
 沢田 貴志 (特定非営利活動法人シェア＝国際保健協力市民の会 副代表理事)  
 下内 昭 (公益財団法人結核予防会結核研究所 副所長)  
 武見 敬三 (九州保健福祉大学客員教授)  
 田辺 功 (医療ジャーナリスト)  
 中畔都舎子 (社団法人全国結核予防婦人団体連絡協議会 会長)  
 並木 能子 (財団法人日本交響楽振興財団 前事務局長)  
 萩原 昇 (日本ビーシージー製造株式会社 代表取締役社長)  
 橋本 岳 (前衆議院議員)  
 浜田 昌良 (参議院議員)  
 ウィリアム・R・ビショップ (日本ベクトン・ディッキンソン株式会社 ガバメントアフェアーズ ディレクター)  
 藤木 武義 (公益財団法人結核予防会 事業部長)  
 保坂 シゲリ (社団法人日本医師会常任理事)  
 増田 國次 (財団法人結核予防会大阪府支部 副支部長)  
 山田 紀男 (公益財団法人結核予防会結核研究所 国際協力部長)

### 監事

大場 昇 (新山手病院 保生会 会長)

## 諮問委員

伊藤 雅治	財団法人社会保険健康事業財団 理事長
尾身 茂	自治医科大学教授、財団法人結核予防会 顧問 世界保健機関 西太平洋地域名誉事務局長
原中 勝征	日本医師会 会長
ジェイコブ・クマレサン	世界保健機関 神戸センター 所長
黒川 清	日本医療政策機構 代表理事 政策研究大学院大学 教授
島尾 忠男	財団法人エイズ予防財団 会長
高久 史麿	自治医科大学 学長、日本医学会 会長
仲村 英一	公益財団法人結核予防会 前理事長 財団法人国際医療技術交流財団 常務理事
山下 武子	保健師、女性の健康づくり推進懇談会委員

## STBJ 推進議員連盟(69名)11月時点

会長	梅村 聡
副会長	大河原 雅子 高階 恵美子 古屋 範子
顧問	武見 敬三
幹事	阿部 知子 糸川 正晃 逢坂 誠二 川田 龍平 浜田 昌良 古川 俊治
事務局長	浜田 昌良